



『金の耳飾』

『これは本当に耳飾りなのだろうか？実際に使っていたのだろうか？そんな疑問が湧いてきました。長い方は13cmを越えています。耳に付けると肩に当たってしまいます。いつも使っていたとすると、柔らかい金製の飾りには磨耗痕やキズが残るはずですが、新品同様です。葬送の時にだけ付けたのではないか？そう思いました。』

それにしても見事な耳飾りです。耳環（じかん）・空玉（うつろだま）・垂下飾（たれかざり）それらを繋ぐ鎖は兵庫鎖です。それぞれに金と銀の含有率が少し異なっています。細くて変形しやすい兵庫鎖には銀が多く含まれています。また、鎖の環はろう付けされていると聞きました。

こんなに長い耳飾りは国内でも数例しかありません。第3主体から出土したものは8.1cmです。また、これらの耳飾りの製作は朝鮮半島、伽耶地方に由来すると考えられています。

第2主体出土



第3主体出土



大伽耶 高霊 池山洞44号墳出土



6.3 cm 6.0 cm

（金製耳飾り：
高霊、池山洞44号墳、三国時代5～6世紀）

三つの石室

宮山古墳の石室は竪穴式で発見順に第1～3主体と名づけられています。年代順では第2主体が最も古く、第3、第1となっています。又、大きさでは第1・第3・第2の順で、第2主体の近親者（関係者）が順次葬られたと考えられています。第1主体は盗掘などでの破壊がひどく副葬品はほとんど見つかりませんでしたが、第2・第3主体からは多く発見され、それらの品は一括して国の重要文化財に指定されています。

（平成10年6月）

参考資料

宮山古墳展 図録 姫路市埋蔵文化財センター 2005年
伽耶文化展 図録 東京国立博物館 朝日新聞社 1992年

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamono.co.jp/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！